

2022年、今年を「観光再生元年」に

# 反転攻勢へアフターコロナ時代

新春特別座談会



米田氏

22年の展覧。新しい旅のスタイルやGo To事業の再開が取り沙汰される中、旅行需要はどの程度回復するか。また、回復させていくか。

米田 先ほどお話ししたコミュニケーション産業という観点から、クラフツリズムでは、KDDIと協業した新しいサブスクリプションサービス「クラフツリズム」を21年10月から提供している。趣味を深掘りできるオンライン講座など、さまざまなコンテンツを月額一定料金で提供するもの。

われわれは新・クラフツリズム構想のもと、趣味のクラブを干、作ることを目指している。この新しいプラットフォームフォームを通して多くのクラブができ、趣味の旅行の進行にまつながること期待している。

近畿日本ツーリストは、先ほど申し上げたプラットフォーム

針を確認した。そこで分かったことは、行政や一般企業、学校も含めて、各地域がコロナ対応に関して、何をしたらいいのか分からず、困っていることだ。

坂巻前社長が「地域を大事にする」「地域を元気づけたい」という経営理念を掲げている。そこに思いを寄せ、47都道府県にある当社の各支店から各地の自治体・学校や企業にお話を伺いに行った。そこでわれわれができたことがはつきり見えってきた。

また、当社は東武路線に26

一つの事例が、山梨県のグリーンゾーン認定。自治体は何をしたらいいのか分からず、お客さまを呼び込むために厳格な認定制度を作り、安全・安全の中でお客さまに来てもらう、というところを始めた。それが一つの成功事例となった。47都道府県の大半に、同様の制度が整った。まさに社会貢献活動に従事しながら、自治体の課題を解決することを目指している。

この先を考えると、現時点で見えない不安はあるが、厳しい状況の中でも自分の力で立って歩いていけるように持っていたことが大きな成果であった。結果として、人員削減や給与カットを一切せず、新規採用も継続することができ、年間を通じて黒字化できた。

五輪パラについては、百木田 自身も招致活動に携わり、IOCの総会が開かれたアエンスアイレスまで行ったのだが、当時はまさか無観客になるとは思っていなかった。

ただ、社内レガシーは十分残ったと思う。一つの目的に向かい、みんなが仕事をやり遂げた。損益としては一部見込み違いがあったものの、大会全体として十分に成果を残すことができた。

従来のリアル店舗による単純な受け型ではお客さまに選択いただけない。ネットを相当深掘りする。宿と飛行機や鉄道、バスなどの交通機関を組み合わせた機能をさらに強化する。

JR西日本グループとして、西日本エリアの素材開発もミッションとなる。

今年当社が国内旅行ブランド「赤い風船」が50周年を迎える。今までは安さを追求するところであったが、これからは旅館・ホテル単館の取り組みから、地域全体における取り組みまで、SDGs案件に関してさらに注力する。持続可能なツーリズムなど社会性を包含することで、お客さまに価値を訴求できる商品、少し割高でも選んでもらえる商品を作っていきたい。

法人営業では、今までのつながりを大切にしつつ、新たなビジネスパートナーを増やし、お互いがウィンウィンになれるようなサービスやビジネスを展開したい。

## 22年の旅行市場の展望

提供されるもの。

われわれは新・クラフツリズム構想のもと、趣味のクラブを干、作ることを目指している。この新しいプラットフォームフォームを通して多くのクラブができ、趣味の旅行の進行にまつながること期待している。

近畿日本ツーリストは、先ほど申し上げたプラットフォーム

## 新規事業で一層飛躍 SDGsさらに注力

米田

在は販売の部分だけが、旅ナカや旅アトまでケアできるシステムにした。

小谷野

小谷野 業界としてインバウンドも含めて、積極的に市場へアプローチする必要が

10面に続く

小谷野 20年と昨年の大きな違いは、20年は7月からGo To事業が開始、10月からは同業で東京発着が追加されたことで、11月も含めてある程度の手応えを感じることができた。

昨年、海外旅行とインバウンドはさすがに難しいが、国内旅行はある程度回復するだろうと、いったんそのような年初計画を作った。しかし年初からの緊急事態宣言で、国内の商売も思うようにいかなくなった。そこで当社として、苦境の中で生き残ることを最優先に、ワクチン接種やPCR検査など、コロナ禍であるがゆえに起こった事業に関わり取り組ませていただいた。ほかにも関連するさまざまな業務を雇用したなど、うまくいった。

旅行業はもろに大きなダメージが消費している中で、われわれは一体何ができるのかというのを考えざるを得なかった。そして、やれることを最大限やって、しっかりと生き残る。という判断を昨年はさせていた。今のところは希望退職なども募らず、親会社にも迷惑を掛けず、これまで来ている。

われわれ旅行業の人間は、社会ですごく評価される可能性があるのだと気付かされた。気付くのが遅かったが、



百木田氏

## 苦境の中で生き残り 一人一人が考え行動

小谷野

百木田

のカウンターがあったのだが、今までのような待ちの営業からの転換を図り、地域と密着した地域の拠点としての機能を注力するため店舗まで集約した。本部機能も一部で集約し、コストを削減している。

先に挙げた地域に密着した課題の解決によって、小谷野社長の話の通り、旅行会社がこまめやるのか、というところの存在感と必要性を自治体に与えたことは大変意義があり、強いインパクトを与えている。

ただ、社内レガシーは十分残ったと思う。一つの目的に向かい、みんなが仕事をやり遂げた。損益としては一部見込み違いがあったものの、大会全体として十分に成果を残すことができた。

五輪パラについては、百木田 自身も招致活動に携わり、IOCの総会が開かれたアエンスアイレスまで行ったのだが、当時はまさか無観客になるとは思っていなかった。

ただ、社内レガシーは十分残ったと思う。一つの目的に向かい、みんなが仕事をやり遂げた。損益としては一部見込み違いがあったものの、大会全体として十分に成果を残すことができた。



能登半島和倉温泉より  
謹んで新年のお慶びを  
申し上げます

能登半島和倉温泉  
国際観光ホテル整備法 登録旅館(登録第177号)

**加賀屋**

〒926-0192 石川県七尾市和倉温泉 TEL 大代表 (0767) 62-1111  
FAX (0767) 62-1121 https://www.kagaya.co.jp/

加賀屋予約センター TEL (0767) 62-4111